

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	医療型児童発達支援センター つくし園		
○保護者評価実施期間	令和7年1月31日 ～ 令和7年2月17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和7年1月31日 ～ 令和7年2月17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な専門スタッフがチームを組み、子どもさんの特性に応じた支援を行っている。	カンファレンスを年4回実施し、情報共有の場を設けている。	より専門性を高めるために研修の充実化を図る。子どもさんの特性への理解を深め、支援の質を高めることができるように取り組んで行く。
2	保護者同伴通園のため、日頃から子どもさんの様子を情報共有しながら、困り事相談しやすい環境を設けている。	訓練や保育場面を通して、困り事に対しての具体的な対応や方法をその都度お伝えしている。スタッフ間で情報共有している。	相談に限らず、日々の様子を保護者と話す時間を大切にし、困った時に保護者が話しやすいと思ってもらえるよう引き続き大切にしていきたい。
3	就学や保育園等の併行利用の際に支援内容等の情報共有を行っている。	個別の情報提供書を作成し、情報共有を行いながら統一した関わりができるようにしている。必要に応じて、通園見学や訓練見学をしていただき、連携を図っている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員（保育士）が不足している。	配置基準は満たしているが最低基準のため、保育所等訪問事業や子ども部会への参加が難しい。	保育所等訪問事業の再開や新たに地域障害児支援体制強化事業の開催に向けて人員体制を整えていく。
2	部屋の基準は満たされているが、子どもさんの特性（発達障がいや重心等）に合わせた活動スペースの確保ができるとよい。	多動児の利用が増加しているので、子どもの特性に合わせた個別の活動部屋があるとよい。お集まりや食事の時間など人が集まるタイミングで狭く感じることもあり。	部屋の広さを広げることは現実的に難しい。パーテーションを使用したり、空き部屋等の活動場所の確保を検討していく。
3	非常時等の対応で、マニュアルは作成されているが周知されていない。	取り組み自体は実施しているが情報開示や伝え方なども弱く正しく理解されていない部分も大きい。	各種マニュアル等の情報共有や提示を行い、保護者にしっかりと情報をお伝えすることができる仕組みづくりに取り組んでいく。避難訓練が登園日で偏りがないように日程調整していく。